

平成 1 6 年度

独立行政法人国立美術館  
国立国際美術館

実績報告書

# 目 次

国立国際美術館の概要	3
業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	4
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	6
1. 収集・保管	6
(1) 美術作品の収集(購入・寄贈・寄託)の状況	6
(2) 保管の状況	8
(3) 修理の状況	9
2. 公衆への観覧	10
(1) 展覧会の状況	10
「常設展」	12
「マルセル・デュシャンと20世紀美術」展(共催展)	14
「中国国宝展」(共催展)	16
「オノデラユキ写真展」(企画展)	19
「国立国際美術館巡回展」	21
(2) 貸与・特別観覧の状況	23
3. 調査研究	24
4. 教育普及	25
(1) - 1 資料の収集及び公開(閲覧)の状況	27
(1) - 2 広報活動の状況	27
(1) - 3 デジタル化の状況	29
(2) - 1 児童生徒を対象とした事業	29
(2) - 2 講演会等の事業	30
(3) - 1 大学等との連携	31
(3) - 2 ボランティアの活用状況	32
(4) 渉外活動	33
5. 新たな美術館の運営に向けた取り組み	34
6. その他の入館者サービス	34

## 国立国際美術館の概要

### 1. 目的

当館は、昭和52年(1977年)に文化庁の施設等機関として設置された四つの国立美術館の一つで、日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために必要な美術作品、その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関連する調査研究及び事業を行うことを目的としている。

展覧事業については、常設展示と企画展示(特別展、企画展、共催展、近作展)の二本立てで運営している。内容は、現代美術を中心に、日本美術の成立と発展が世界の美術のそれと密接な関係を有することを美術作品の展覧を通じ、系統的・具体的に明らかにするものである。また、日本と世界の現代美術の新しい動向をわかりやすく展示している。

資料の収集については、日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために必要な美術に関する作品・その他の資料のうち、現代美術(主に1945年以降)を重点的に収集している。

調査研究については、現代美術に関する基礎的調査研究、企画展示及び常設展示に関する調査研究のほか、世界の現代美術界の動向等の調査研究も行っている。

このほか、展覧事業の広報・普及、調査研究成果の公表、美術に関する講演会等の開催などの事業も行っている。

なお、当館は1970年に開催された大阪万国博覧会の際に建設された万国博美術館を利用して活動を行ってきたが、施設の老朽化、収蔵庫の狭隘及び交通アクセス等の諸問題から、大阪市内(中之島)への新築・移転を行い2004年11月3日(文化の日)にグランドオープンを迎えた。

### 2. 土地・建物

建面積	4,156.54 m <sup>2</sup>
延べ面積	13,486.93 m <sup>2</sup>
展示面積	3,811.1 m <sup>2</sup> (地下2階:1,962.2 m <sup>2</sup> 、地下3階:1,848.9 m <sup>2</sup> )
収蔵庫面積	1,827.9 m <sup>2</sup> (地下2階:928.2 m <sup>2</sup> 、地下3階:899.7 m <sup>2</sup> )

3. 定員 16人

4. 予算 884,883,000円

## 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 中期計画

- 1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。
  - (1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化
  - (2) 省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進
  - (3) 講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進
  - (4) 外部委託の推進
  - (5) 事務のOA化の推進
  - (6) 連絡システムの構築等による事務の効率化
  - (7) 積極的な一般競争入札を導入
- 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。

### 実績

1. 業務の一元化  
これまで行ってきた一元化事務に加え、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。
2. 省エネルギー等(リサイクル)
  - (1) 光熱水量  
管理部門における室温の年間常温(夏季27、冬季25)の励行に加え、廊下・トイレ等に人感センサーの照明器具を導入し節電に努めたが、平成16年4月から8月までの間、旧館と新館の両方を使用していたこと、また、新館はオール電化であるため、使用量、料金とも前年度を大きく上回った。なお、節水についても周知等の徹底を図ったが、水道使用料金単価が旧館より高くなったため、使用量は前年度を約10%下回ったが、料金は大きく上回った。しかし、ガスについては、新館はオール電化のため、前年度を大きく下回った。今後、より一層の省エネルギー化に努めたい。
 

ア. 電気	使用量	2,746,759kwh	(平成15年度比	307.73%)
	料金	40,477,150円	(平成15年度比	173.76%)
イ. 水道	使用量	5,055m <sup>3</sup>	(平成15年度比	89.47%)
	料金	2,310,758円	(平成15年度比	239.31%)
ウ. ガス	使用量	116m <sup>3</sup>	(平成15年度比	29.31%)
	料金	13,409円	(平成15年度比	27.53%)
  - (2) 廃棄物処理量  
館内LANを利用した通知文書の発信や両面コピーの推進により、ペーパーレス化に努めた。また、産業廃棄物については、移転に伴い什器類を廃棄処分としたためである。
 

ア. 一般廃棄物	8,905Kg	(平成15年度比	86.12%)	料金	185,460円	(平成15年度比	81.34%)
イ. 産業廃棄物	1,290Kg	(平成15年度比	%)	料金	984,000円	(平成15年度比	%)
  - (3) その他 古紙の再利用、OA機器のトナーカートリッジなどのリサイクルによる再生使用
3. 施設の有効利用  
講堂の利用率 17% (26日/149日)
 

・講演会	6日
・ワークショップ	4日
・ビデオ等上映	8日
・外部機関の利用	8日
4. 外部委託
 

1 常駐警備業務	2 機械警備業務
3 清掃業務	4 看視業務
5 電気機械設備運転業務	6 昇降機設備保全業務
7 情報システム保守業務	8 空調設備保守業務

9 受変電設備保守業務

10 消防設備点検業務

11 庶務課業務

12 ミュージアムショップ運営業務

## 5. O A化

### 館内LANの整備状況

館内LANを利用した情報の共有及びメールを利用した通知・連絡により、ペーパーレス化を図るとともに、事務の効率化を図った。

・紙の使用量 206,000枚 (平成15年度比 149.26%)

A4判 185,000枚

A3判 21,000枚

## 6. 一般競争入札

一般競争入札 0件、100万円以上契約件数 52件

平成16年度契約では、一般競争入札に付す案件はなかった。

ただし、土地借料、陳列品購入費、新館工事費を除く。

## 7. 評議員会、外部評価委員会

### (1) 評議員会

開催回数 1回(平成17年2月21日(月))

議事内容 平成16年度事業報告、平成17年度年度計画(案)

平成17年度予算概要(案)、その他(評価結果の報告)

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

「1%の業務の効率化」目標については、平成15年度に引き続き十分達成することができた。

省エネルギー化については、館内職員に隔々まで効率化の精神が行き渡り、その結果、予想以上の成果を上げることができた。

新館開館に向け、職員が一丸となって準備作業及び通常業務に取り組み、可能な限りの業務運営の効率化を図りながら、効率化目標数値をクリアした。

地下1階パブリックゾーンにある講堂の外部機関への貸し出し、展示場でのコンサートの開催、映画試写会、二胡のコンサート開催など、館内施設の有効利用の促進に努めた。

### 【見直し又は改善を要する点】

省エネルギーのペーパーレス化については、館内LANの利用促進やコピー用紙の両面印刷など、できる限りの努力を行ったが、美術館という性質上、広報普及活動等におけるペーパー使用量をおさえることが、予想以上に困難であった。

今後も、業務運営の改善可能な事項の見直しに努め、効率化を引き続き推進していきたい。

# 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

## 1. 収集・保管

### (1) 美術作品の収集(購入・寄贈・寄託)の状況

#### 中期計画

(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を図る。また、そのための情報収集を行う。

#### (国立国際美術館)

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために、主に1945年以降の日本及び欧米の現代美術並びに国際的に注目される国内外の同時代の美術を系統的に収集する。

(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている分野を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。

#### 実績

1. 購入	49件		
2. 寄贈	126件		
3. 寄託	74件		
4. 陳列品購入費	予算額	116,004,000円	決算額 116,003,500円

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

中期計画の収集方針に基づき、すでに収蔵している作品の欠落部分を補い、陳列を体系的に充実させるため、各学芸員が日常的な調査研究活動及び展覧会出品作の中で幅広く情報を収集したうえで、美術作品等選考委員会及び評価委員会の審議を踏まえ、49点の美術作品を購入し、同時代の芸術の新たな動向をコレクションに反映させた。また、寄贈作品についても同様の手続きを経て、当館にふさわしい作品として認められた126点について、寄贈受入を行うなど着実に作品収集を行った。

主な作品として、洋画では、日本の現代美術を代表する斎藤義重の絵画《作品N》(1958)とグラフィックデザイナーで画家の横尾忠則の1980年代初頭の秀作《ディナーパーティの話題》(1982)の2点を収蔵した。また、「もの派」周辺の動向を充実させる作品として、関根伸夫の水彩《Project》(1974)や吉田克朗の絵画《触“体 110》などを収蔵した。

彫刻では、アメリカを代表するオブジェ作家ジョゼフ・コーネルの《無題(北ホテル)》(1950s)をはじめ、トニー・クラッグ(イギリス)のブロンズ作品《ペトリ・カルチャー》(1987)、90年代以降の新たな動きを示す作品として、キキ・スミス(アメリカ)の雁皮紙による作品《闇》(1997)などを収蔵した。

また、近年収集対象としての重要性がますます増している写真の分野では、ブラジル生まれのヴィック・ムニーズの最近作《白いパラ》(2003)や今年度当館で個展を開催したオノデラユキの代表作《古着のポートレート》(1997)などを収蔵した。

版画の分野では、浜田知明の代表作《初年兵哀歌(歩哨)》(1954)をはじめ、泉茂、吉原英雄、池田満寿夫ら戦後を代表する版画家の作品を収蔵した。

なお、寄贈については、版画家の南桂子の水彩・素描をはじめ、具体美術のメンバーであった鷺見康夫の1950年代の絵画や彫刻家ヤノベケンジの素描などの寄贈を受けた。

寄託作品の受け入れについては、今年度パブロ・ピカソの代表的な版画作品47点など、生前から展覧会等を通じて密接な交流を続けてきた結果、作家やコレクターの没後、遺作や収蔵品を優先的に受けることができた。

寄贈・寄託は収蔵作品の欠落を補う有効な方法であり、積極的にその推進に努めたところであるが、今後もさらにその推進方策を検討していきたい。

なお、平成16年度は新館移転の休館期間があり、例年ほど収集を実施できなかったが、作品購入費の一部は

京都国立近代美術館で有効に使用した。

\* 添付資料

収集した美術作品件数の推移（事業実績統計表 p.7）

寄託された美術作品件数の推移（事業実績統計表 p.2 ）

購入・寄贈美術作品の一覧（事業実績統計表 p.31）

## (2) 保管の状況

### 中期計画

- (2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。
- (2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。

### 実績

#### 1. 温湿度

##### 展示会場

空調実施時間 9:30～17:00 (夜間閉館日: 19:00)

温度 夏季 25、冬季 21 湿度 夏季、冬季 50%

##### \* 入館者が入ったときの温湿度管理について

中央監視装置の設定温湿度のデータ分析により、快適環境の維持に対応した。

##### \* 24時間空調を行わない理由

地下施設であるため、閉館後に空調機器を停止させても温湿度の変化が小さいことと、現代美術という温湿度変化の影響を比較的受けにくい作品が中心であるため。

##### 収蔵庫

空調実施時間 終日(24時間)

温度 夏季、冬季 22 湿度 夏季、冬季 55%

##### \* 24時間空調を行わない理由

2. 照明 作品に最も適した照明環境を創出し、常に必要に応じた改善を行った。
3. 空気汚染 中央監視装置により二酸化炭素濃度を測定し、常に快適環境を維持した。
4. 防災 監視モニター及び警備員による定期巡回等、必要に応じた対策を行った。
5. 防犯 防犯システムの充実に加え、監視モニターと警備員による定期巡回のほか、退館後は機械警備とし防犯対策を行った。
6. その他 適正な温湿度の管理により、作品の保存環境の整備に努めている。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

展示場及び収蔵庫が地下にあるため、温湿度の制御がしやすくなったことに加え、ケミカルフィルターの組み込まれた空調機が、コンクリートから発生するアンモニアや空気中に含まれるアンモニアを除去し、収蔵庫内にクリーンエアーを循環させることができるため、快適な保存、収蔵環境を維持した。

### (3) 修理の状況

#### 中期計画

(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。

緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。

伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。

(3)-2 国内外の博物館等の修理、保存処理の充実に寄与する。

#### 実績

1. 洋画	3件		
水彩	1件		
素描	11件		
版画	41件		
写真	21件		
彫刻	5件		
2. 修理経費	予算額	12,000,000円	決算額 12,341,317円

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

移転・開館の準備を進める中で、所蔵品の全ての保存状態が確認できたことは、長期的な修理計画をたてるうえで大変有意義であった。

今年度についても、予算の範囲内で緊急に修理を必要とするものから計画的に修理を行った。

また、客員研究員を受入れ、紙支持体作品及び現代美術作品の調査研究を行った。

##### 【見直し又は改善を要する点】

これまでの修理点数も少ないことから、データベース化には至っていないが必要性は認識しており、法人内での統一した取り扱いを含め、今後も継続的に検討していきたい。

また、作品修理に関する専門家の常勤職員化が必要であると考えている。

##### \*添付資料

修理した美術作品件数の推移（事業実績統計表 p.3）

修理した美術作品の一覧（事業実績統計表 p.44）

## 2. 公衆への観覧

### (1) 展覧会の状況

#### 中期計画

- (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。
- (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。
- (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

#### (国立国際美術館)

年5～6回程度

- (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。
- (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。
- (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。  
なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。  
また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。
- (2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。
- (3) 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

#### 実績(総括表)

1. 常設展  
展示替 2回
2. 特別展・企画展 3回  
中期計画記載回数：年5～6回  
「マルセル・デュシャンと20世紀美術」展  
「中国国宝展」  
「オノデラユキ写真展」
3. 入館者数 485,111人(目標入場者数 292,000人)
4. 展覧会開催経費 予算額 35,712,000円 決算額 35,475,316円
5. その他  
新館グランドオープンという話題性に加え、共催展が中心であったことから、入館者数は目標入場者数を大幅に上回った。

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

現代美術作品を主として扱う当館にあって、新館の開館記念展に現代美術の父とも呼ばれている「マルセル・デュシャン」を取り上げたことは大きな意義があった。また、完全地下型美術館という建物そのものが一つの美術作品であるとの話題を集め、予想以上に幅広い年齢層の来館者が訪れたことは、現代美術を広く普及させる観点から大きな成果であったと考える。

常設展においても、代表的な所蔵作品を厳選して展示するなど、多くの来館者に現代美術を理解してもらえるよう努めた。

各展覧会ごとに行うポスター・チラシ及びホームページによる広報活動はもちろんのこと、新館そのものの認知度を高めるため、様々な方面で積極的な広報活動を行い入館者数の増加に努めた。

**【見直し又は改善を要する点】**

予想を大幅に上回る来館者があった場合、建物の構造上の問題から、待機列や誘導方法について検討する必要があると考える。

## 「常設展」

### 方 針

受託品を含む館蔵品の中から定期的に展示替えを行い、第二次世界大戦後の日本及び欧米の現代美術について、可能な限り多くの作品を紹介することを目的とした。

### 実 績

1. 開会期間  
平成16年11月 3日～平成17年 1月23日( 64日間)  
平成17年 2月 5日～平成17年 4月17日( 62日間/うち平成16年度47日間)  
計 126日間(平成16年度合計 111日)  
(常設展のみの開催期間 20日間)
2. 会 場  
地階2階展示場
3. 出品点数  
81件  
43件  
延 124件
4. 入館者数  
186,355人(目標入場者数 148,000人)  
うち常設展のみの入館者数 14,048人(目標入場者数 4,000人)
5. 入場料金 個人 : 一般420円 大学生130円 高校生70円  
団体 : 一般210円 大学生 70円 高校生40円
6. 入場料収入  
(常設展のみの入場料収入の合計 2,877,870円)(目標入場料収入 269,000円)
7. 決 算 額 13,156,700円
8. アンケート調査(企画展等のアンケートに含めて実施している。)  
調査期間 平成16年11月25日～平成16年11月28日(4日間)  
平成17年 2月15日～平成17年 2月18日(4日間)  
平成17年 3月31日～平成17年 4月 3日(4日間)  
調査方法 展示場出口にアンケート用紙を配置し、任意で記入・提出を依頼した。  
アンケート回収数 537件  
420件  
107件  
アンケート結果 ・良い 63%(338件)・普通 34%(182件)・悪い 3%(17件)  
・良い 52%(217件)・普通 36%(154件)・悪い 12%(49件)  
・良い 58%( 62件)・普通 35%( 37件)・悪い 7%( 8件)
9. その他  
常設展の充実を図るため、内容等について十分な検討を行い、魅力的な展示になるよう努めた。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

新館グランドオープンということから、代表的な所蔵作品を厳選し、また、同時開催の企画展のテーマにちなんだ作品を関連づけて展示するなど、多くの来館者に現代美術を理解してもらえるよう努めた。

また、収蔵作品を特定のテーマ別にして常設展を実施した。

なお、平成16年度は、新館移転のため4月から10月まで休館し、11月からの開館であったため、1回しか展示替えを行うことが出来なかったが、テーマごとに展示スペースを設定するなど、観覧者が当館の作品収蔵方針を明確に理解できるよう努めた。

**【見直し又は改善を要する点】**

常設展示のさらなる充実を図り、展示作品の選定や作品の展示方法等に工夫を凝らし、現代美術に対する理解を更に高めるよう努めていきたい。

## 「マルセル・デュシャンと20世紀美術」展（共催展）

### 方 針

当館は、大阪市内の中之島に移転し新館をオープンすることとなった。現代美術の収集・展示を基本方針とする当館の新たな出発となる開館記念展は、当館の使命の確認であると同時にこれからの姿勢の表明でもある。その意味で、20世紀の美術に大きな足跡を残し、現代美術に多大な影響を与えたマルセル・デュシャンの展覧会を開館記念展として開催することは、現代美術を紹介する美術館として非常に意義深いと考え企画した。マルセル・デュシャンという一人物の回顧展にとどまらず、デュシャンと現代美術の関係をさぐる展覧会とすることで、現代美術の大きな方向性を見ることができると期待した。

### 実 績

1. 開会期間 平成16年11月 3日～平成16年12月19日（41日間）
2. 会 場 国立国際美術館
3. 主 催 国立国際美術館、朝日新聞社、朝日放送  
協 賛 DNP 大日本印刷、（財）ダイキン工業現代美術振興財団  
協 力 日本航空
4. 出品点数 155件
5. 入館者数 56,453人（目標入場者数 30,000人）  
新館のお披露目に加え、マルセル・デュシャンの展覧会が関西では初めてであり、国内でも約20年ぶりの開催ということから高い関心が持たれ、目標入館者数を大きく上回ることとなった。
6. 入場料金 個人：一般1,300円 高校・大学生900円 小・中学生500円  
団体：一般1,000円 高校・大学生600円 小・中学生200円  
前売：一般1,100円 高校・大学生700円 小・中学生300円
7. 入場料収入 12,361,640円（目標入場料収入 2,016,000円）
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容  
「現代美術の父」とも呼ばれるマルセル・デュシャンの初期絵画から晩年の作品までを紹介する展覧会。同時に、デュシャンに触発された国内外の現代美術作家たちの作品もあわせて展示し、デュシャンを通して20世紀美術をとらえなおす展覧会とした。  
また、今後の館の活動の方向性を明確に示した。
10. 講演会等  
6回 参加人数 1,030人（詳細は「教育普及」講演会等欄へ）
11. 広報 プレスリリースの発行、交通広告（JR、私鉄及び地下鉄駅構内公共情報コーナーへのポスター掲出）、美術館等へのポスター・チラシの配布、朝日新聞社外壁に展覧会広報用の横断幕を掲出
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等  
朝日新聞 10月29日  
International Press 10月30日  
朝日新聞 11月 6日（夕） モブノリオ  
産経新聞 11月17日 早瀬廣美  
The Daily Yomiuri 11月18日 Hiroko Ihara  
日本経済新聞 11月22日（夕） 淳  
朝日新聞 11月26日（夕） 篠原資明  
福島民報 11月27日

デーリー東北	11月28日	
上毛新聞	11月29日	
河北新聞	11月30日	
中国新聞	12月 2日	
山形新聞	12月 4日	
朝日新聞	12月 4日(夕)	森本俊司
長野日報	12月 6日	
福井新聞	12月 6日	
The Japan Times	12月 8日	Matthew Larking
琉球新報	12月 8日	
神戸新聞	12月11日	田中真治
陸奥新聞	12月11日	
LUCA	9 - 11月号	松下幸子
ぴあ関西版	11月 4日	古川 誠
関西大人のウォーカー	11月26日	
家庭画報	11月号	片岡みい子
月刊Gallery	Vol.325	
VOGUE	No.40	青野尚子
SAVVY	12月号	岡山 拓
プレシャス	12月号	紫牟田伸子
RIPPLE	No.11	木ノ下智恵子
美術手帖	1月号	いとうせいこう
ART IT	Vol.3 No.1	
アエラ	1月24日	原 久子
芸術新潮	2月号	
新日曜美術館アートシーン(NHK教育)	11月21日	
他、多数		

### 13. アンケート調査

調査期間 平成16年11月25日～平成16年11月28日(4日間)

調査方法 展示場出口にアンケート用紙を配置し、任意で記入・提出を依頼した。

アンケート回収数 551件

アンケート結果 ・良い 68%(376件) ・普通 31%(168件) ・悪い 1%(7件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

マルセル・デュシャンの作品を一堂に集めた展覧会は、世界的に見ても実現が非常に困難な事業である。まず何より、4年以上の準備期間をかけて当館の開館記念展として実現できたことが意義深い。当館に対する関心や期待、並びにデュシャンへの関心の高さによって、予想を大きく上回る入館者が訪れたことは、開館を飾る展覧会として十分にその責務を果たした。

特色ある取組みとしては、通常の展覧会に比べ多くの講演会・シンポジウム・ギャラリートーク・映画上映などのイベントを開催した。また、来館者へのサービスの一つとして、当館初の試みとなる作品解説のイヤホンガイドも導入した。

## 「中国国宝展」(共催展)

### 方 針

新館移転後の当館は、歴史と文化を継承する大阪・中之島の地における新たな文化の拠点として、より多くの市民に親しまれる施設を目指している。大阪の地は、古来中国大陸との関係が密接であり、長く続いた交流の歴史がある。中国国宝展は、「仏教美術の変遷」「考古学の新発見」をテーマに中国ならではの芸術的な魅力に富む遺品の数々をより幅広い観客層に紹介できる展示を目指した。

### 実 績

1. 開会期間 平成17年 1月18日～平成17年 3月27日(60日間)
2. 会 場 国立国際美術館
3. 主 催 国立国際美術館、東京国立博物館、朝日新聞社、朝日放送、中国国家文物局、  
中国国家博物館(中国文物交流中心)  
後 援 外務省、文化庁、中国大使館、(社)日中友好協会、人民日報社  
協 賛 トヨタ自動車株式会社、凸版印刷株式会社、松下電器産業株式会社、株式会社竹中工務店  
協 力 講談社、小学館、ニッセイ同和損害保険、全日空、(財)ダイキン工業現代美術振興財団
4. 出品点数 146件
5. 入館者数 131,093人(目標入場者数 66,000人)  
中国仏教美術の約1000年にわたる変遷をたどる世界初の壮大な試みや中国国内でもなかなか公開されない貴重な作品の展示ということから高い関心が持たれ、目標入館者数を大きく上回ることとなった。
6. 入場料金 個人 : 一般1,300円 高校・大学生900円 小・中学生500円  
団体 : 一般1,000円 高校・大学生600円 小・中学生200円  
前売 : 一般1,100円 高校・大学生700円 小・中学生300円
7. 入場料収入 28,789,100円(目標入場料収入 4,435,200円)
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容  
長大な歴史と広大な国土とをあわせもつ中国には、数千年にわたる時代の貴重な文化財が多数残されており、その文化の真髄を、「仏教美術」と「考古学の新発見」に焦点を当てた展覧会とした。
10. 講演会等  
2回 参加人数 370人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 プレスリリースの発行、交通広告(JR、私鉄及び地下鉄駅構内公共情報コーナーへのポスター掲出)、美術館等へのポスター・チラシの配布、朝日新聞社外壁に展覧会広報用の横断幕を掲出
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等  
日本経済新聞 10月11日  
Asahi.com 10月12日 <http://www.asahi.com/culture/update/1012/005.html>  
朝日新聞 10月19日  
朝日新聞 1月10日  
朝日新聞 1月13日  
わがまち北区 1月15日  
朝日新聞 1月18日  
朝日新聞 1月18日(夕)  
朝日新聞 1月19日(夕)  
朝日新聞 1月19日(夕) 中沢新一(談)  
朝日新聞 1月20日(夕)  
朝日新聞 1月21日(夕) 江里佐代子(談)  
朝日新聞 1月21日(夕)

朝日新聞	1月21日(夕)	梅原猛(談)
中日新聞	1月23日	芦原千晶
The Asahi Shimbun	1月24日	
朝日新聞	1月25日(夕)	
朝日新聞	1月26日(AI)	
朝日新聞	1月26日(夕)	
朝日新聞	1月27日(夕)	
朝日新聞	1月28日(夕)	
朝日新聞	1月29日(夕)	
K PRESS	2月1日	
朝日新聞	2月1日(夕)	
朝日新聞	2月2日(夕)	
朝日新聞	2月3日(夕)	
朝日新聞	2月4日(夕)	
朝日新聞	2月5日(夕)	
朝日新聞	2月6日	
産経新聞	2月6日	早瀬廣美
朝日新聞	2月8日(夕)	
朝日新聞	2月9日(夕)	
朝日新聞	2月10日(夕)	
朝日新聞	2月12日(夕)	
日本経済新聞	2月12日(夕)	千葉淳一
朝日新聞	2月16日(夕)	
文教速報	2月16日	
朝日新聞	2月17日(夕)	
朝日新聞	2月18日(夕)	
朝日新聞	2月22日(夕)	
朝日新聞	2月23日(夕)	
朝日新聞	2月24日(夕)	
朝日新聞	2月25日(夕)	
朝日新聞	2月26日(夕)	
K PRESS	3月1日	
朝日新聞	3月2日(夕)	
朝日新聞	3月5日(夕)	
朝日新聞	3月6日	
朝日新聞	3月8日(夕)	
朝日新聞	3月10日(夕)	鶴間和幸、はな(談)
朝日新聞	3月18日(夕)	
朝日新聞	3月28日	
朝日新聞広告局	広告特集3月	谷豊信

### 13. アンケート調査

調査期間 平成17年 2月15日~平成17年 2月18日(4日間)

調査方法 展示場出口にアンケート用紙を配置し、任意で記入・提出を依頼した。

アンケート回収数 537件

アンケート結果 ・良い 83%(444件) ・普通 15%(79件) ・悪い 2%(14件)

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

今回の「中国国宝展」では、中国全土から選りすぐった優品により、中国文化の真髄を紹介することを目指した。「考古学の新発見」では、発見間もない貴重な作品が展示され、また「仏教美術」においては、国宝級の作品によって中国仏教受容史が概覧できるという、近年稀に見る試みがなされた。また、老若男女を問わず幅広い年齢層に受け入れられ、普段美術館に足を運びにくい観客層の獲得にも成功した。

### 【見直し又は改善を要する点】

入館者数の多い日には、導線が分かりづらく、観客からの質問が多くでた。今後、待機列や誘導方法について、検討する必要があると考える。

## 「オノデラユキ写真展」(企画展)

### 方 針

中国国宝展の開催中に、当館が主体的に関わる現代作家の個展を開くことは、幅広い観客層に同時代美術の魅力を知ってもらう貴重な機会である。そのため、常設展示場の一部を企画展会場として、今年度はパリ在住で国際的に活躍する写真家オノデラユキの個展を開催することとした。

また、オノデラユキ写真展の開催に合わせ、写真コレクションを常設展示して、当館の現代写真に対する収集の成果を示すと同時に、オノデラユキの写真の特質が浮かび上がるように配慮した。

### 実 績

1. 開会期間 平成17年 2月 5日～平成17年 4月17日(46日間)  
(うち平成16年度47日間)
2. 会 場 国立国際美術館
3. 主 催 国立国際美術館  
協 賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団、株式会社資生堂、キヤノン株式会社
4. 出品点数 52件
5. 入館者数 111,230人(目標入場者数56,000人(うち平成16年度は48,000人))  
中国国宝展と同時開催だったこともあり、また写真も具象的かつ馴染みやすいテーマが多かったため、この種の企画展としては、異例の入場者を記録した。
6. 入場料金 個人 : 一般420円 大学生130円 高校生70円  
団体 : 一般210円 大学生 70円 高校生40円
7. 入場料収入 常設展の開館期間 と同時開催のため入場料収入は、常設展に計上。
8. 担当した研究員数 1人
9. 展覧会の内容  
パリを拠点に国際的に活躍する写真家オノデラユキの個展。代表作《古着のポートレート》をはじめ、オノデラがこの10年取り組んだ連作を中心に、新作を加えた52点によって、オノデラの遊び心あふれる写真世界を紹介した。印刷物では分からないプリントの質感や作品の大きさを実感できる展示となった。
10. 講演会等  
2回 参加人数 210人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報 プレスリリースの発行、交通広告(地下鉄駅構内公共情報コーナーへのポスター掲出)、美術館等へのポスター・チラシの配布
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等  
関西ウォーカー 2月2日 - 15日  
KANSAI TIME OUT 2月号 Christopher Stephens  
ギャラリー 2月号  
Garden展覧会情報 2月 小市裕子  
THE JAPAN TIMES 2月9日 Matthew Larking  
新日曜美術館アートシーン(NHK総合) 2月13日  
ぴあ(中部版) 2月17日号  
朝日新聞(東京版)夕刊 2月18日 西田健作  
読売新聞夕刊 2月23日 木村未来  
芸術新潮 3月号  
ヴォーグニッポン 3月号 青野尚子  
art press 3月号 Evence Verdier

### 13. アンケート調査

調査期間 平成17年 3月31日～平成17年 4月 3日(4日間)

調査方法 展示場出口にアンケート用紙を配置し、任意で記入・提出を依頼した。

アンケート回収数 107件

アンケート結果 ・良い 66%(70件) ・普通 23%(25件) ・悪い 11%(12件)

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

今回のオノデラユキ写真展は、万博公園時代に開催していた、中堅作家の個展シリーズ「近作展」の延長上であり、比較的若手の作家の個展を開催する最初の企画となった。関西ではほとんど紹介されてこなかっただけに、現代写真に興味のある若い世代を中心に来場者が相次いだ。開会初日のオノデラ自身による「作者と語る」には180名もの観客が聴講に訪れ、オノデラの写真世界に関心を持つ観客の期待に応えることができた。

現代写真の動向は、絵画や彫刻と並ぶまでになっており、今後も力量のある写真家の個展やグループ展の開催の可能性を探ることが大切である。

# 「美術ってなーに？ 大阪・国立国際美術館コレクション 20世紀美術への招待 - セザンヌ、ピカソからウォーホルまで -」展（国立国際美術館巡回展）

## 方 針

国立国際美術館の大阪・中之島移転のための休館の期間中に、当館が所蔵する現代美術作品のコレクションを多くの人々の楽しみ、親しんでいただくために企画した。

## 実 績

1. 開会期間	平成16年 4月 2日～平成16年 5月16日(39日間) 平成16年 5月21日～平成16年 7月 4日(39日間) 平成16年 7月 9日～平成16年 8月15日(33日間)
2. 会 場	八代市立博物館 大分市美術館 岡山県立美術館
3. 主 催	八代市立博物館、国立国際美術館 大分市美術館、国立国際美術館 岡山県立美術館、国立国際美術館
協 賛	(財)ダイキン工業現代美術振興財団
4. 出品点数	66件
5. 入館者数	5,439人 6,504人 6,193人
6. 入場料金	大人830円、大学生450円、高校生250円、 大人(団体)560円、大学生(団体)250円、高校生(団体)130円
7. 担当した研究員数	1人
8. 展覧会の内容	当館のコレクションのうち、国内外を代表する作家50人余の作品を、「人物」「風景」「静物」「空間」という4つのテーマに分類して展観した。多くの方に、20世紀に繰り広げられた様々な表現の冒険というべき世界を体験いただく機会を提供することを企図した。
10. 講演会等	13回 参加人数 482人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ)
11. 広報	プレスリリースの発行、交通広告美術館等へのポスター、チラシの配布
12. 展覧会関連新聞・雑誌記事等	熊本日々新聞 4月 2日 西日本新聞 4月17日 西日本新聞 4月21日 熊本日々新聞 4月30日 毎日新聞(福山版) 7月 4日 廣瀬就久 岡山日々新聞 7月 8日 井上知子 山陽新聞 7月10日 朝日新聞(岡山版) 7月11日 岡山日々新聞 7月15日 岩竹彰子 読売新聞(岡山版) 7月16日

岡山日々新聞

7月23日 廣畑 浩

山陽新聞

8月 8日

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

当館休館中に実施した巡回展ということで、ピカソ、セザンヌといった主要な所蔵作品を中心に展示することができたことが意義深い。中でも、八代市立博物館では39日の会期で過去1年間の最高の入場者数に達するなど、各地方の多くの方々に20世紀以降の現代美術に親しんでいただく、またとない機会となった。

#### 【見直し又は改善を要する点】

今後、このような主要作品すべてでもって巡回展を実施することは困難であるが、テーマを絞った巡回展の実施について努めていきたい。

## (2) 貸与・特別観覧の状況

### 中期計画

(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の博物館・美術館その他これに類する施設に対し、貸与及び特別観覧を積極的に推進する。

### 実績

#### 1. 貸与・特別観覧の件数

貸 与 40件(289点)

特別観覧 9件(23点)

#### 2. その他

優れた現代美術作品の相互活用を推進するため、他館からの要望に幅広く応えるよう努めた。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

他館からの作品貸与依頼は引き続き多く、優れた現代美術作品の相互活用を推進すると同時に、当館の所蔵品をできる限り広く観覧に供するため、その要望には積極的に応えるよう努めた。同じく海外の美術館2館からの貸与依頼に対しても積極的な対応を行った。平成16年度は、当館移転のための休館中に企画した巡回展があり、当館所蔵品66点の作品が、国内3ヶ所の美術館において観覧に供されることとなり、館の存在をアピールすることができた。

#### 【見直し又は改善を要する点】

貸与・特別観覧の料金について、見直しに向けた検討を指摘されているが、今後、法人全体の課題として、他の公私立美術館や博物館の実情を精査しながら検討を進めていきたい。

#### \*添付資料

貸与件数の推移(事業実績統計表 p.8)

特別観覧件数の推移(事業実績統計表 p.9)

### 3. 調査研究

#### 中期計画

- (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。
- <1> 収蔵品に関する調査研究
  - <2> 美術作品に関する調査研究
  - <3> 収集・保管・展示に関する調査研究
  - <4> 美術史、美術動向、作者に関する調査研究
  - <5> 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等
- (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。
- (2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

#### 実績

1. 調査研究
- (1) 現代美術の調査研究
    - 日本の現代美術に関する調査研究
    - 海外の現代美術に関する調査研究
  - (2) 展覧会のための調査研究
    - マルセル・デュシャンに関する調査研究
    - オノデラユキに関する調査研究
  - (3) 美術館教育に関する研究
  - (4) 科学研究費補助金による調査研究
    - 「大阪における近代商業デザインの調査研究」(基盤研究 代表 宮島久雄)
  - (5) 美術家・森村泰昌によるフェルメール「画家のアトリエ」再現に関する調査研究
  - (6) その他(講演会、セミナー等での発表)
    - 別紙「調査研究一覧」参照
2. 客員研究員等の招聘実績(年度計画記載人数: 1人)  
客員研究員1名を招聘し、以下の調査研究を行った。  
ア. 紙支持体作品の保存に関する調査研究  
イ. 現代美術作品の保存に関する調査研究
3. 調査研究費 予算額 25,890,000円 決算額 20,901,527円

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

年度計画に基づき、現代美術及び展覧会等に関する調査研究を行った。現代美術の調査研究については、当館広報誌である月報及び美術館ニュースへの発表7件をはじめ18件の発表が行われ、展覧会のための研究についても、展覧会図録、月報及び美術館ニュースを中心に、論文、年譜、参考文献など12件の発表を行うなど、積極的に研究成果の発表に努めた。

さらに、講演会やセミナーにおいても、積極的に研究成果の発表に努め、7件の発表を行った。

また、科学研究費補助金による調査研究についても積極的に取り組み、着実に成果を挙げることができた。

\*添付資料

調査研究一覧(事業実績統計表 p.67)

## 4 . 教育普及

- (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。
- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。
- (2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。  
また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
- (3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。  
それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。  
また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。
- (4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。
- (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。
- (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。
- (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。
- (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。  
また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。
- (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。
- (6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

### 方 針

常設展示や企画展示などによる現代美術の紹介を補うため、多角的に美術に親しんでもらうための教育活動を行うとともに、インターンやボランティア制度の導入により、新館移転後の新しい教育普及活動のあり方についても検討を行った。

## 実績(総括表)

(1) - 1 資料の収集及び公開		
収集件数	239件	
公開場所	情報コーナーにおいて、資料の一部公開を行っている。	
(1) - 2 広報活動の状況		
刊行物による広報活動	9種	19冊
ホームページによる広報活動	展覧会情報を中心に、各種教育普及事業の開催計画を掲載し、館の活動について積極的な情報発信を行うとともに、新館に関する情報提供にも努めた。	
マスメディアの利用による広報活動	展覧会情報や館の活動状況について、マスメディアに対する積極的な情報提供を行うとともに、取材や撮影依頼にも可能な限り対応した。	
(1) - 3 デジタル化の状況		
平成16年度にデジタル化した美術作品の件数		
・文字データ	175件	
・画像データ	0件	
・図書データ	1,423件	
(2) - 1 児童生徒を対象とした事業		
こどものためのワークショップ	4回	104人
こどものためのギャラリー・トーク	1回	6人
ビデオ上映	1回	18人
(2) - 2 講演会等の事業		
講演会	18回	1,445人
ギャラリー・トーク	5回	450人
ビデオ等上映	7回	314人
(3) - 1 大学等との連携		
大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を行った。		
インターンの活用状況	平成16年度は6名(大学院生及び修了者)を受け入れ、学芸業務全般にわたって従事させた。	
(3) - 2 ボランティアの活用状況		
平成16年度は60名(大学生)を受け入れ、美術館業務の補助業務に従事させた。		
(4) 渉外活動		
館の業務充実を図るため、展覧会への寄付金支援をはじめ、経済団体等からの支援方策について検討を行った。		
(5) 教育普及経費	予算額 51,166,000円	決算額 50,170,505円

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

子供たちを対象としたワークショップやビデオ上映などは、当館のユニークな活動として定着し、講演会、ギャラリートークなども、現代美術への理解をうながす好機として、多くの参加者があった。

また、平成15年度から導入したインターン、学生のボランティア制度は、美術館における新しい教育普及活動のあり方を探るうえにおいても、非常に有意義な事業活動であった。

なお、インターン2名がポーラ美術館の学芸員、京都国立近代美術館学芸課研究補佐員として採用されたことは、当館にとっても喜ばしいことであった。

\*添付資料

教育普及件数の推移 (事業実績統計表 p.15)

## (1) - 1 資料の収集及び公開(閲覧)の状況

### 中期計画

(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。

### 実績

1. 収集  
件数 239件
2. 公開  
情報コーナーにおいて、資料の一部公開を行った。

### 自己点検評価

中期計画に基づき基礎資料等の収集に努め、前年に引き続き、現代作家研究の基礎となるカタログ、レゾネを中心に収書を行った。

新館開館後は、情報コーナーを利用して一般入館者への公開を始めたが、施設と人員の制約から十分なものとはいえず、今後、更なる充実に向けて検討を進めていきたい。

## (1) - 2 広報活動の状況

### 中期計画

(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。

また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。

### 実績

1. 広報誌名
  - (1) 年報「平成15年度版」  
発行年月日 1回発行(年度計画記載発行回数1回)  
料金 無償  
配布先 広報普及先の各機関及び関係者
  - (2) 概要(施設概要を転用して作成)  
発行年月日 1回発行(年度計画記載発行回数1回)  
料金 無償  
配布先 広報普及先の各機関及び関係者 会場内配布, 修学旅行野計画のための学校等
  - (3) 図録  
発行年月日 3回発行  
料金 無償  
配布先 広報普及先の各機関及び関係者
  - (4) リーフレット  
発行年月日 2回発行  
料金 無償  
配布先 会場内
  - (5) ジュニアガイドブック  
発行年月日 1回発行(年度計画記載発行回数1回)  
料金 無償  
配布先 会場内及び近隣の教育関係機関
  - (6) 月報(10月号から隔月報化し「美術館ニュース」にリニューアル)  
発行年月日 8回発行(年度計画記載発行回数12回)  
料金 無償  
配布先 広報普及先の各機関及び関係者
  - (7) 展覧会案内

発行年月日 1回発行  
料金 無償  
配布先 会場内及び広報普及先の各機関  
(8) 所蔵作品選  
発行年月日 平成16年11月発行  
料金 1,500円  
配布先 広報普及先の各機関

#### 自己点検評価

##### 【良かった点、特色ある取組み】

中期計画及び年度計画に基づき、美術作品及び当館の活動内容について国民の理解促進を図るため、各種発行物の刊行により、幅広い年齢層に対する普及広報活動に努めた。また、ホームページの内容充実を図るなど、より積極的な広報活動にも努めてきた。

また、移転・開館に関しては、所在地の大阪・中之島及び当館そのものを広く認知してもらえるよう、版画家の山本容子デザインによる移転広報用ポスターのJR大阪駅コンコースへの掲出や、朝日新聞、読売新聞での全面広告掲出を行ったほか、マスコミ、旅行エージェント及び経済団体等への施設見学、説明会を頻繁に開催するなど、積極的な普及広報活動を行った。

なお、事業実績をまとめた年報については、年度当初の速やかな発刊に努めており、評価会議等の場において、当館の事業結果をいち早く周知させる資料として、大いに活用できていることは有意義である。

## (1) - 3 デジタル化の状況

### 中期計画

- (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。
- (5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。
- (5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。  
また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。

### 実績

#### 1. 所蔵作品のデジタル化

平成16年度にデジタル化した美術作品の件数

文字データ 175件、画像データ 0件

平成16年度未収蔵作品数 5,234件(寄託作品74件を含む。)

平成16年度未デジタル化作品数 文字データ 5,160件、画像データ 2,065件

今後のデジタル化の対応 毎年約100件をデジタル化予定

#### 2. ホームページのアクセス件数(平成12年度アクセス件数 182,218件)

332,107件

#### 3. デジタル化した情報の公開

HP等による公開件数 0件

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

平成16年11月新館オープンに向け、ホームページをリニューアルした。今後さらに、インターネットを活用した普及活動の推進に努めたい。

#### 【見直し又は改善を要する点】

平成16年度のデジタル化した画像データが0件となっているのは、大阪市中之島への移転作業のため取りかかれなかったため、今後はデジタル化について積極的に取り組みたい。

## (2) - 1 児童生徒を対象とした事業

### 中期計画

- (2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。

また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。

### 実績

#### 1. 事業名 こどものためのワークショップ

##### 開催期間

ア.平成16年 8月28日(1日間)(開催場所:地下1階講堂)

イ.平成16年11月21日(1日間)(開催場所:地下1階講堂)

ウ.平成17年1月15日(1日間)(開催場所:地下1階講堂)

エ.平成17年 2月19日(1日間)(開催場所:地下1階講堂)

参加者数(平成12年度実績 人)

104人(97人)

担当した研究員数	2人
事業内容	現役作家と子供たちが直接交流できるワークショップ
2. 事業名	こどものためのギャラリー・トーク
開催期間	ア.平成16年12月18日(1日間)(開催場所:地下1階パブリックゾーン)
参加者数(平成12年度実績)	人)
	6人
担当した研究員数	1人
事業内容	国立国際美術館と現代美術作品に親んでもらうための解説
3. 事業名	ビデオ上映
開催期間	ア.平成17年1月22日(1日間)(開催場所:地下1階講堂)
参加者数	
	18人
担当した研究員数	2人
事業内容	現代美術の解説

### 自己点検評価

【良かった点、特色ある取組み】
ワークショップについては、作家自身との共同制作など、アーティストのユニークな発想が子ども達に大変好評であった。また、事業実施のためのリーフレットを作成したり、ホームページを利用するなど、広報活動にも積極的に取り組んだ。
【見直し又は改善を要する点】
ワークショップ専用のアトリエスペースがなく、企画内容や使える資材にも制約があった。新館移転後の事業計画については、対応人数も含め、今後の検討課題としていきたい。

## (2) - 2 講演会等の事業

<b>中期計画</b>
(3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。
それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。
また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。

### 実 績

1. 講演会	
18回(シンポジウム1回、ワークショップ9回を含む。)(年度計画記載回数:2回)	
開催期間	18日間(延べ18回)
開催場所	講堂及び展示場
参加者数	1,445人(延べ人数)(平成15年度実績 9回:1,416人)
担当した研究員数	18人(延べ人数)
事業内容	展覧会に合わせた講演会及び現代美術に関する普及事業
アンケート結果(回答数 件) ・良い %( 件) ・普通 %( 件) ・悪い %( 件)	
180件 ・良い 89%(160件) ・普通 10%(18件) ・悪い 1%(2件)	
200件 ・良い 98%(195件) ・普通 2%(5件) ・悪い 0%(0件)	
180件 ・良い 94%(170件) ・普通 6%(10件) ・悪い 0%(0件)	

200件 ・良い 97% (193件) ・普通 3% (7件) ・悪い 0% (0件)  
 200件 ・良い 98% (195件) ・普通 2% (5件) ・悪い 0% (0件)  
 180件 ・良い 89% (160件) ・普通 11% (20件) ・悪い 0% (0件)  
 170件 ・良い 97% (165件) ・普通 3% (5件) ・悪い 0% (0件)

## 2. ギャラリー・トーク

3回 (年度計画記載回数: 2回)

開催期間 5日間 (延べ5回)

開催場所 講堂及び展示場

参加者数 450人 (延べ人数) (平成14年度実績 6回: 703人)

担当した研究員数 3人 (延べ人数)

事業内容 展示作品の解説

アンケート結果 (回答数 件) ・良い % (件) ・普通 % (件) ・悪い % (件)

120件 ・良い 84% (100件) ・普通 13% (16件) ・悪い 3% (4件)

150件 ・良い 93% (140件) ・普通 7% (10件) ・悪い 0% (0件)

30件 ・良い 67% (20件) ・普通 33% (10件) ・悪い 0% (0件)

## 3. ヴィデオ等上映

7回 (年度計画記載回数: 3回)

開催期間 7日間 (延べ7回)

開催場所 地下1階講堂

参加者数 314人 (延べ人数) (平成15年度実績 4回: 63人)

担当した研究員数 3人

事業内容 展示作品の解説及び現代美術の紹介

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

展覧会にあわせた教育普及事業として、講演会や対談、ギャラリー・トークなどを積極的に実施した。現代美術を扱う展覧会において、作家自身による講演会や対談などは、出品作家の生の声に触れることができる貴重な機会であった。また、展覧会ごとにギャラリー・トークを実施し、担当学芸員が展示場内で作品を見ながら分かりやすく解説を行うとともに、来館者が感じた疑問や感想などを直接フィードバックできる、恰好の機会ともなっている。今後も、現代美術に関する教育普及事業として、充実した内容を検討しながら継続していきたいと考えている。

## (3) - 1 大学等との連携

### 中期計画

大学等と連携し、大学院生や大学生を受け入れ、美術作品に関する実習等について検討、実施する。

### 実績

#### 1. 博物館実習生

受入期間 平成16年 7月26日~平成16年 8月 3日 (土、日を除く7日間)

開催場所 国立国際美術館

参加者数 (平成12年度実績 人)

13名 (21名)

担当した研究員数 7人

事業内容

大学生の学芸員資格取得のための博物館実習

その他

近隣の美術館を利用したカリキュラムを導入し、できるだけ日常業務を体験できる形での実習に努めた。

#### 2. インターンシップ制度の実施

受入期間 平成16年4月1日~平成17年3月31日

開催場所 国立国際美術館  
参加者数  
6人(0人) 平成15年度からの新規事業  
担当した研究員数 7人  
事業内容

美術作品や美術史、あるいは美術館の活動や学芸員の業務に関心を持ち、それらを研究し、将来美術に関わる仕事に就きたいと強く希望する者(大学院生または大学院修了者)に対し、より具体的、実践的な知識を習得してもらうことを目的とした実務研修。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

博物館実習については、開館準備期間中の実施であったが、近隣の大阪市立東洋陶磁美術館の協力により、幅広い実体験の場を提供することができた。このことは、実習生にとっては勿論のこと、当館と他館の連携協力の面でも大変有意義な実習となった。

インターンについては、学芸員との日常的な実務研修を通じ、各自の専門的知識の向上、経験の蓄積は勿論のこと、館にとっても、今後の新しい教育普及事業のあり方を探るうえにおいて、有意義な事業活動であった。

#### 【見直し又は改善を要する点】

学芸員と各インターン間において、研修課題やその取り組み方に対する相談をより緊密に行うことにより、学芸業務の更なる円滑化を図るとともに、インターンのより高い参加意識と研修内容の充実を目指していきたい。

## (3) - 2 ボランティアの活用状況

### 中期計画

(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。

### 実績

1. 登録人数 60人

2. 活動内容

展覧会ごとに実施する教育普及事業(講演会、ワークショップ等)の補助業務を中心に、各種広報物の発送及び図書資料を含む各種資料等の整理補助業務に従事した。

3. 今後の取組み

教育普及事業を中心とした美術館としての今後の新しい事業展開に、ボランティア活動を積極的に活用することで、事業の効率化と内容の充実を図っていきたい。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

スタッフ数の少ない当館において、各種教育普及事業を実施する際の補助者として、ボランティアに協力いただけたことは、来館者に対するきめ細かいサービスにもつながり非常に有益であった。

また、開館準備に伴う資料整理や広報物の発送作業等においても協力が得られ、迅速かつ有効な広報活動につながった。

#### 【見直し又は改善を要する点】

ボランティアに対するより確実、効率的な連絡体制の確立と、効果的な勤務形態の検討を行っていきたい。また、各人の参加意識を高めながら、美術館業務に対する理解を深められるよう工夫していきたい。

## (4) 渉外活動

### 中期計画

(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。

### 実績

下記のとおり、展覧会助成として3件の寄附金を受け入れた。

「マルセル・デュシャンと20世紀美術展」(共催展)

財団法人花王芸術・科学財団から、1,000,000円を受け入れ。

財団法人U F J 信託文化財団から、800,000円を受け入れ。

「オノデラユキ写真展」

資生堂から、500,000円を受け入れ。

### 自己点検評価

#### 【良かった点、特色ある取組み】

展覧会に対する助成団体への申請を積極的に行い、平成16年度は3件の助成支援を受けた。館の事業をより充実したものとするために、有効な方策であると考えられるので、今後も積極的に取り組んでいきたい。

#### 【見直し又は改善を要する点】

新館では、これまで以上に教育普及・広報宣伝が重要であるとの認識から、当館を支援いただける企業、経済団体との関わり方について、引き続き検討を進めていきたい。

## 5 . 新たな美術館の運営に向けた取り組み

### 中期計画

国立国際美術館新館については、平成16年の移転に向けて、体制整備、展示等の実施準備を進め、開館後は円滑な事業実施に努める。具体的な管理運営のあり方等については開館までに検討を進める。

### 実績

館長の優れたリーダーシップのもと、学芸課、庶務課の職員が一丸となって、所蔵作品の移転を計画的かつ円滑に進めるとともに、開館に向けた設備、備品等の整備を着実に進め、開館準備に万全を期した。

新館における管理運営のあり方等については、各部会が相互に連携を取りながら、周到かつ十分な検討を進めてきたことから、開館後の事業運営は、特段の支障もなく円滑に進めることが出来た。

### 自己点検評価

移転・開館という大事業を無事に成し遂げたこと、また、開館後の円滑な事業運営に向けた準備を着実に進めてきたことは、スタッフの少ない当館にとって大変な労力を必要とするものであった。効率的かつ着実に作業を進めるためには、館長はじめ職員全員が情報を共有する必要があるとの考えから、どんな些細な疑問、問題点も全体会議に諮り、各職員に自分自身の問題として認識させたことが大きな成果につながったと考えている。

今後の事業運営等においても、これまで同様、職員一丸となって努力していきたい。

## 6 . その他の入館者サービス

### 中期計画

- (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。
- (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。
- (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。
- (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイドやハイビジョン等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
- (2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。
- (3) ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。

### 実績

- 1 . 高齢者・身体障害者のための施設整備等 (1)-1
  - 障害者トイレ 1個所 (B1階 1個所)
  - 障害者エレベータ 2基
  - 段差解消 (スロープ) 0個所
  - 貸出用車椅子 6台 (1階)
- 2 . 観覧環境の充実 (1)-2, (1)-4
  - 展示作品リストを含めたリーフレットを無料配布するとともに、館内にビデオテークを設置し、情報提供を行った。
- 3 . 夜間開館等の実施状況 (1)-3
  - (1) 夜間開館実施状況

ア．開催日数 17日間  
イ．入館者数 4423人(総入場者数 485,131人,夜間開館入場率 0.9%)  
ウ．実施日 共催展開催期間中の毎週金曜日

(2) 小中学生の入場料の低廉化

平成16年度についても、常設展及び企画展において、小・中学生の観覧料を無料とした。

(3) (2)以外の入場料金の取り組み方

ア．学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を実施した。

(4) その他の入館者サービス

共済展開催中の毎週金曜日に夜間開館を実施した。

ベビーカー2台の貸し出しを始めた。

高齢者に配慮して、拡大鏡(ルーペ)を受付に配置し、希望者に貸出しを行った。

4. アンケート調査(1)-3

調査期間 平成16年11月25日～平成16年11月28日(4日間)

平成17年 2月15日～平成17年 2月18日(4日間)

平成17年 3月31日～平成17年 4月 3日(4日間)

調査方法 展示場出口にアンケート用紙を配置し、任意で記入・提出を依頼した。

アンケート回収数 480件

472件

111件

アンケート結果 ・良い 72%(345件)・普通 26%(127件)・悪い 2%(8件)

・良い 66%(310件)・普通 27%(130件)・悪い 7%(32件)

・良い 50%(55件)・普通 28%(31件)・悪い 22%(25件)

5. 一般入館者等の要望の反映(2)

アンケート結果の分析を行い、可能なものから改善に努めるとともに、新館運営に向けて参考とした。

6. レストラン・ミュージアムショップの充実(3)

現代美術をより親しく感じてもらえるよう、販売グッズの内容を検討し、充実に努めた。

## 自己点検評価

### 【良かった点、特色ある取組み】

当館では、展示空間の在り方が展示作品に大きく反映する現代美術を扱うため、展示場内に解説パネル類を掲示することができない。これは、作品自体を十全な状態で鑑賞してもらいたいという配慮からであるが、一方では来館者から、解説パネルを望む声や作品キャプションを大きくして欲しいとの声も聞かれる。そのような声に応えるため、各展覧会ごとに展示作品リストを含めたリーフレットを無料配布するなど、鑑賞環境の充実に努めた。

また、新館移転後の入館者サービスについては、これまでのアンケート結果の分析を踏まえ、ゴールデンウィーク中の休館日の臨時開館、「国際博物館の日」に伴う入館料無料日の設定、共催展等開催期間中の金曜日の夜間開館、キッズルームの設置など実施したが、さらなる充実に目指し検討を進めていきたい。